

深川市のGIGAスクールを振り返ってみる

元々GIGAスクールはコロナ対策ではなかった

新型コロナウイルス感染症のためGIGAスクールが動き出したと誤解されているケースもあるが、構想そのものは2019年（令和元年...コロナ禍前）からのスタート。

いわゆる「第二次PISAショック(2018年)」から始まった。

※第一次PISAショック...2003年、これを契機に「脱ゆとり」へ方向転換。

- ▶ 2019年 12月、構想の発表
- ▶ 2020年 冬、新型コロナウイルスまん延（5類相当になるまで約2年半続く）
8月 GIGAスクールサポーター契約
新型コロナウイルス感染症拡大によりGIGAスクール実施が前倒し
- ▶ 2021年 3月までにChromebook納品完了
教育推進事業 音江小学校指定
9月 ICT支援員雇用
- ▶ 2022年 道立高校生徒のBYOD利用開始
教育推進事業 一己小学校指定
- ▶ 2023年 教育推進事業 納内小学校指定

実はChromebook納品から3年未満、ここまでの進捗は驚異的（ロケットスタート）

深川のロケットスタートはうまくいったが 今後は「追われる立場」に

- ▶ **最初はみんな手探りだった...今は情報がかなり増えてきた**
教員、学校や自治体の情報発信も増えており、「大人の情報活用能力」も充実
同時にノウハウも蓄積されてきた
- ▶ **企業も様々なサービスが増えつつある**
各企業にとっても大きなビジネスチャンスであるGIGAスクール。
GIGAスクールの趣旨にマッチしたサービスもかなり増えている。
- ▶ **コロナ禍における「考え方の変容」**
「コロナ禍でデジタル転換が10年進んだ」との説もある。今更戻れない状況。
- ▶ **後出しじゃんけんはやっぱ有利**
当たり前のことではあるが、先行事例があれば効率よくものごとを進められる。

決して順位を争うものではないが、現在の状況を維持するためには「この状況で満足せず、不断の努力が必要不可欠」、すなわち「継続は力なり」ということ

深川市立学校ICT利活用の「ここがすごい」 外の人間だからこそ、素晴らしさがわかる

- ▶ **学校と市教委の敷居が低い**
学校と教育委員会が「同じ方向を見て」推進している地域はそう多くない。
- ▶ **隣接校や進学元・進学先の情報共有ができています**
進学元と進学先の情報共有（大人の情報共有）ができています。
- ▶ **発達段階に応じた利活用を「地域で」考えている**
「地域として子ども達に身につけさせたいICTスキル」を早い段階で意思統一。
- ▶ **常勤の情報通信技術支援員**
学校の困りごとを解決するためには情報通信技術支援員は必須。
- ▶ **学びだけではなく、校務のICT化も進みつつある**
学びのICT化だけではなく校務のICT化にも取り組み校務効率化をすすめている。

「GIGAスクールは国策」と明言、予算措置も まだこの追い風は続きそう

- ▶ **GIGAスクール端末の維持について、勘のいい自治体は最初から気づいていた**
5年契約の途中でバッテリー交換を条件とした自治体や、更新計画を最初から考えていた自治体もあるが、多くの自治体は「そこまで考えていない」
- ▶ **政府の方針・動きは？**
政府の骨太の方針2023には「**国策として推進するGIGAスクール構想**の1人1台端末について、公教必須ツールとして、更新を着実に進める。」と盛り込まれた(2023.6.16)
- ▶ **国はGIGAスクール端末の寿命を4～5年と考えている**（2023.8.30文科省概算要求）
早い自治体ではR6更新が見込まれるため、計画的に端末更新は文部科学省でも議論当初は補助要件に利活用計画の策定なども検討されていた模様。
- ▶ **そして二代目GIGAスクール端末への布石**
R5補正予算で二代目GIGA端末への国費予算措置が閣議決定(2023.11.29)
市町村への直接補助ではない（基金方式）だが、二代目はなんとかかなりそう
ただし三代目はどうなるかわからない...

現場の課題は「もの」から「ひと」へ？

今年のトレンドはモラル・リテラシー・知財

- ▶ **今年度は情報モラル・リテラシーや知的財産に関する研修依頼がかなり増えている状況**
範囲は児童生徒だけではなく、教職員や保護者向けもある
- ▶ **憶測ではあるが、学校における課題が使い手側にシフトしつつある？**
当初の課題は「端末・ネットワーク・アプリ」など、ものに対する議論
それが落ち着いて指導や使い手のモラル等に課題が移りつつあるのでは？
- ▶ **そもそもモラルやリテラシーが醸成されていないと学びでICTは使えない**
導入初期では「いたずらをする子」は必ずいる
ただしそれは「授業規律」の話かもしれない（ICTに特化された話ではない）
- ▶ **では深川はどうか...保護者を巻き込んだモラル向上が動き出している**
通信事業者等による児童生徒の情報モラル指導は元々実施されている
今月、多度志小で保護者も交えた情報モラル教室を実施
※**情報モラルの向上は保護者の理解も重要、児童生徒や学校だけの話ではない**

行き着くところは「学びの効率化」 効率化で生まれた時間で更なる学びへ

- ▶ **一般的にはICTのメリットは「距離と時間の短縮」と言われている。**
- ▶ **距離の短縮...地理的な制約を超えて情報共有・コミュニケーションが可能
活用が進めば「深川だから学べない」という理屈は成立しない**
- ▶ **時間の短縮...学びのロスタイムを集約し、深い思考や学び合うための時間へ**
これまでの授業では「生徒が待っている時間」が少なからずあった。
提示、収集、共有、練り合い、理解、これらの時短＝効率化を推し進める
- ▶ **ただし、これらを進めるには「初期投資」は必要不可欠**
活用スキルの習熟度が低いと足踏みをしている学校も多い
深川は？もう初期投資といえる活用は完了している状況なのでは？
- ▶ **全てICT化すればいいという話ではない。目指すところは「ハイブリッド化」**
例えば板書、プロセスを解説する板書はICTに置き換えても効率化しない

育成したいのは情報活用能力 でもこれは児童生徒に限った話ではない

▶ 「情報活用能力」の定義は？

世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力。

▶ 言い換えるなら「未来の予測が難しい社会でも生き抜く力」

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性（VUCA）の高い社会で生き抜くためには、必要な情報を収集し、考え、行動することが必要となる。

▶ 活動は、市町村界を超えてもかまわない

様々な調整は必要とはなるが、ICTを使えば実現可能（距離の短縮効果）
児童生徒における意見の多様性の確保という視点でも効果大

▶ 実は大人も情報活用能力は必要

学校現場の多くは「隣の学校ですら何をやっているかよくわかっていない」
深川市はそういう意味でも「一歩先を進んでいる」

深川でも学べる・深川でも負けない 深川市での学びを誇りに思えるように

- ▶ **学びの地域格差は現実的にある、それをICTが緩和できるかもしれない**
教育の機会均等とはいえど、地域格差は否定できないのが現実
全ての補完はできないが、ICTの活用によって緩和できる可能性は高い
- ▶ **ICTを活用すれば、更なる深い学びの時間を確保できるかもしれない**
大人になって複数の問題解決をすることは日常茶飯事
ロスタイムを集約して、新たな時間を創造することが必要
- ▶ **学びは「農耕型」種を蒔き、育て、収穫するには時間がかかる**
学びは様々な投資をしても、その効果はすぐには現れない
時間をかけて丁寧に育成していくのは農業と同じ
- ▶ **大人が子ども達にできることは「可能性・選択肢を増やすこと」**
少なくとも「深川で生まれたからできなかった」とは言わせたくない
「深川に生まれたこと」に誇りを持てる子ども達に...